



## 平成二十四年度予算 有効かつ効率的な執行を

赤石 継美 (明政一心会)

**議員** 平成二十四年度

予算の収入について、税収見込みを含めてどのように考えているのか。

**市長** 予算規模は二百九十四億円程度として、特別枠一億円を見込んでいます。

来年度は、一般財源である市税や地方交付税などの歳入減少が数億円規模で想定されることから、限られた財源の中でより一層事務事業の選択と集中による事業の重点化、効率化を図り、特別会計、企業会計も含めた連結ベースでの健全財政を維持するための予算になるよう編成していきたいと考えています。

**TPP参加で市農業への影響は**

**議員** TPP参加による市農業への影響額を市

**独自で算出しているか。**

**農林部長** TPPに参加した場合の市の第一次産業への影響額は、輸入力や貿易量の増大等による農産物の国際的な取引価格の変化、国内での輸入農産物の消費動向、また関連する産業への波及など、さまざまな要因があり、それらの数値見通しがつかないため、市として影響額を試算することは極めて困難です。青森県内では、米の生産額は五百七十六億円ほどで関税率は七七・八%、牛の生産額は九十三億円

で関税率は三八・五%であり、この関税率が撤廃されると本市の主力である米、畜産に多大な影響があると考えています。

今後、国、県等と連携し、TPP問題への対応、対策を図っていききたいと考えています。

**次期計画での介護保険料は**

**議員** 第五期介護保険事業計画での介護保険料の基準額は幾らか。

**健康福祉部長** 第五期老人福祉計画及び介護保険事業計画の策定を協議する介護保険運営協議会での結論が出ていないので、現時点で提示できる段階ではありません。



元気はつらつ運動教室から

## 郷土愛をはぐくむ教育を

江渡 信貴 (高志会)



育の充実を図っていききたいと考えています。

**教育部長** 各小中学校では、社会科、生活科、総合的な学習の時間などに、郷土十和田市を知る学習を初め地域発見学習、ヒメマス放流体験、地域を流れる川の水質検査や水辺生物を調べる青い森水辺に学ぶプロジェクト学習、伝統芸能の継承活動など、特色ある郷土教育が行われています。

また、教育委員会では稲生塾の開設、郷土館の収納資料や国指定重要文化財、旧笠石家住宅を利用した昔の暮らしを学ぶ体験学習授業を実施しています。稲生塾は現在の四十名程度が最良と考えていますが、多くの子供たちへの学習機会の提供という観点から、今年度二つの小学校で稲生塾の出前講座を実施しています。この講座を拡充し、より多くの子供たちに学習する機会を提供していきたいと考えています。

**市長** 先人の開拓精神や功績などを学び、郷土の理解を深める場として、小学生を対象とした稲生塾などを開設しています。

今後とも次代を担う人材の育成のために、郷土教育の充実を図っていき



稲生塾から

**要支援児童に適切な教育、支援を**

**議員** 要支援児童は年々ふえており、教育現場は深刻な人員不足であるが、現場の声をどのように受けとめているのか。

**教育部長** 学校からの要望を受け、支援が必要な児童生徒の状況や学校の支援体制等を勘案し、特別支援教育支援員を平成十九年度十二名、平成二十年度十六名、平成二十一年度十九名、平成二十二年度二十一名、平成二十三年度二十二名と毎年ふやして

います。今後とも状況に応じた適正な配置に努めていき